



道徳新時代到来 in 幸手！ ～幸手市立行幸小学校の取組み～

教育委員会教育部指導課
1月30日(木)、「みんなが行きたくなる 笑顔あふれる 行幸小」で、平成30年度・令和元年度文部科学省道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業および埼玉県教育委員会による道徳教育研究推進モデル校として、研究発表会を開催しました。市内外、県内外から200人を超える教育関係者が来校し、道徳教育について研修を深めました。

まず、山西実教育長、井上弘江校長、担任教諭、保護者ピアニストによる、絵本「ごろりん ごろんごろろろ」を使った思いやりをテーマにした授業からスタートしました。教室には児童よりも多い参観者がいるにもかかわらず、児童はあっという間に絵本の世界に引き込まれ、45分間真剣に考えていました。



シンポジウムでは、文部科学省教科調査官浅見哲也氏をはじめ、県内外で道徳教育を牽引している指導者4名が、「これからの道徳教育に求められること」について、それぞれの立場から現状や課題を交え、参会者にわかりやすく語りました。

特別支援学級、各学年1クラスの公開授業では、研究の実践例を具体的に紹介することができました。研究発表では教職員・児童・保護者・地域の人が入り替わりながら「自己を見つめ、よりよく生きようとする児童の育成」を目指して2年間取り組んだ成果を発表し、市内外に広めることができました。

市教育委員会では、今後もこのような優れた取組みを全小・中学校に波及させ、さまざまな教育活動に家庭や地域の協力のもと、子どもたちの豊かな心を育成していきます。

八代小学校「総合的な学習の時間」の取組み 『広報やしろ』ができるまで

八代小学校3年生は総合的な学習の時間で「幸手じまん」という学習に取り組みました。

この学習では八代地区にある“じまんの種”を地域の人に紹介するため、実際に歩き、体験し、話を聞き、郷土資料館で調べた、“じまんの種”を大切に育ててきました。

本紙2月号で紹介した、出張授業「70年の歴史がある広報紙の役割」を活かし、「じまんの種の広め方」「じまんの種を選ぶ」「文章・レイアウトを考える」という学習を行いながら、地域の人に紹介する準備を進めてきました。

子どもたちは、数ある八代のじまんの種の中から「大蛇・彩のきずな・ささら獅子・宝聖寺・黄色い看板」を選び、花を咲かせる方法として「広報やしろ」の作成を進めていきます。

最初の原稿が出来上がると「こうやってできるんだね。」「八代地区のみなさんに私たちの文字は読めるかな。」「写真の配置はここにしたいかなあ。」と読み手を意識した目線に変わっていったそうです。

学習を担当した教頭の坂本先生は「総合的な学習の時間は、各学校で学習内容を定めていくため、学習内容を作っていくという苦労は絶えません。しかし、多くの体験活動や、たくさんの人との出会いを通じて、各教科で習得した学力を駆使しながら思考力・判断力・表現力を培っていける大切な時間でもあります。今回の学習で、子どもたちの中に『八代地区への郷土愛』が深まれば、この学習がうまくいったのではないかと思います。」と話してくれました。

八代小学校3年生が作成した、花を咲かせる取組みの成果「広報やしろ」を紹介します！
市ホームページまたは、QRコードを読み取るとご覧いただけます。



幸手市小中学校手をつなぐ子らの交歓会

2月14日(金)北公民館で市内小・中学校11校の特別支援学級児童・生徒が歌やダンスなど、工夫を凝らした発表をしていました。今回はその中から3校の発表の様子をご紹介します。



東中学校1年生の大熊陸斗くん(右)は落語「桃太郎」を披露。「落語は内容をすべて暗記してから、話し方を研究しました。今日は納得のいく発表ができてよかったです。これからも落語を披露していきたいです！」と、今後への意欲を語ってくれました。

同校2年生の渡部創士くん(左)は和太鼓「祭り囃子」を披露。「和太鼓が好きで、中学1年生から始めました。いい演奏ができたと思います。(足元の)提灯も自分で作りました！」と、満足そうに話してくれました。



QRコードを読み取ると大熊くんの落語「桃太郎」(約6分)が聞けます！
ぜひイヤホンでお聞かせください！



上高野小学校は群読・表現「がんばれニッポン！かがやき2020」を披露。

聖火台に火が灯され演技が始まります。大きな声での群読や、組体操、縄跳び、ダブルダッチなど、体全体を使って表現していました。

最後には全員でオリンピックシンボルを掲げ、会場から大きな拍手が送られました。

西中学校は和太鼓「ぶちあわせ・ドッコイ」を披露。

色とりどりののはっぴに身を包み、力強く和太鼓を打ちます。2、3人で代わる代わる演奏をしていきますが、息の合ったスムーズな交代はさすが中学生。

和太鼓の演奏に合わせて、「ハイ！」や「ハッ！」といった掛け声がかかり、非常に迫力のある発表となりました。



若草俳句会

「冬景色・鴨」

朽ち野でも

アトになりし冬景色

高橋照子・幸手市中野

冬ざれや

子の住む町に坂多し

鴨田とし子・幸手市中

家制度

想い起こさず鴨の群

田口もと子・幸手市中

風立ちぬ

岸辺に移る鴨の群

田村千秋・さいたま市南

冬景色

堅田遙かに筑波山

中緒知和子・幸手市香日向

クレインの

構え大きく冬景色

中田志づ・幸手市権現堂

冬景色

雪の降る土地降らぬ土地

吉成誠介・幸手市香日向

療原短歌会

イグアスの

滝しぶき浴みし蝶の群

虹立つなかを

さらめきて飛ぶ

桑島正江・東四

立春の

朝日に白き遠富士の

おごそかにして

ひときは映ゆる

尾上喜子・栄六

駅伝の

たすき渡せず一斉スタート

選手どの

画面に聞こゆ

中村孝子・南三

こきぎみに

揺れて横向かたくりの

可憐さにあう

三疊の山に

野口と志子・東五

下り来し

山見返れば吉野山

咲きそむ桜花に

朝の陽はてる

大熊昭子・東五

